

発達障害に対する手帳制度の創設について（提案）

2019年3月22日
2022年2月9日改定

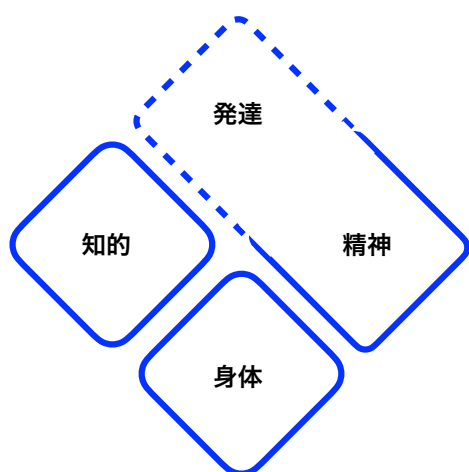
国保旭中央病院小児科

前本達男

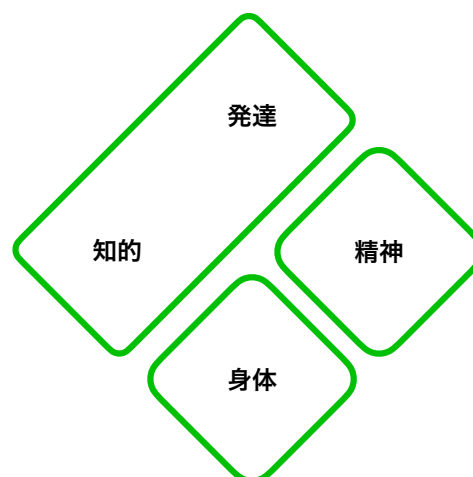
1

【障害をどのように分類するか】

今の日本福祉制度



世界

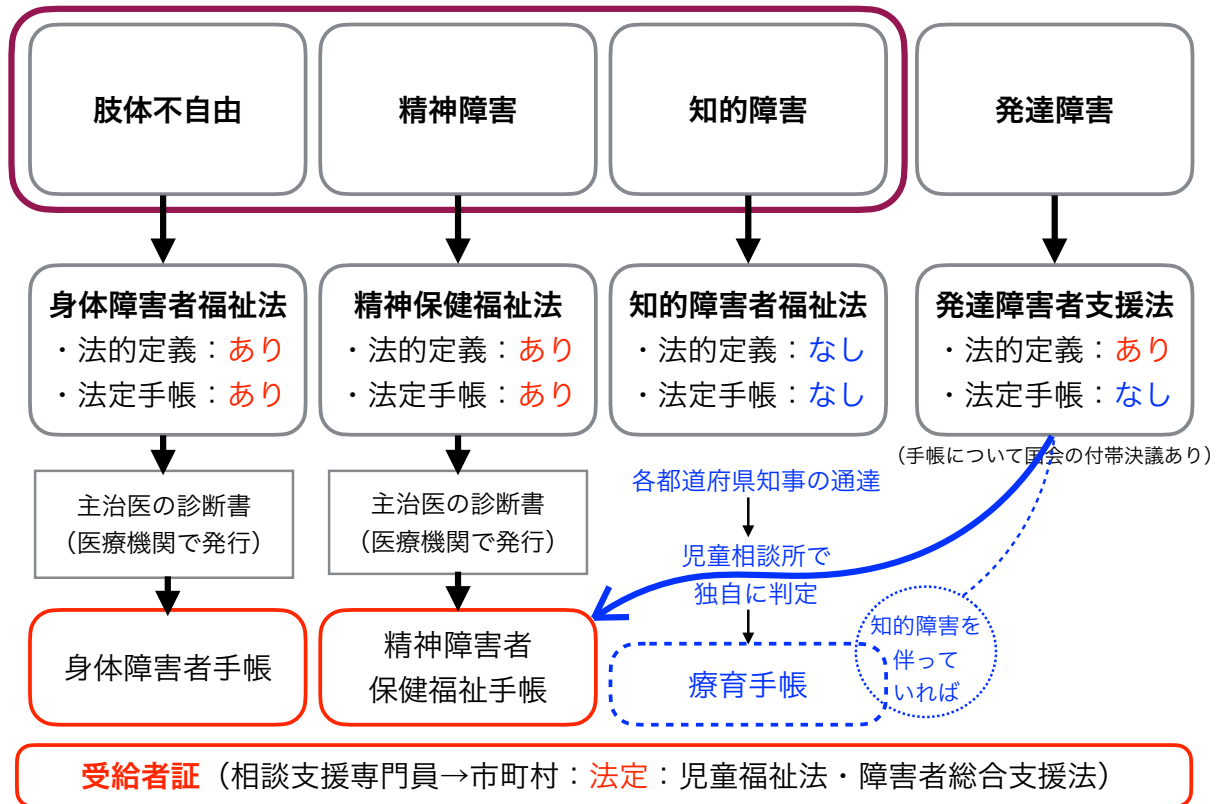


- ・日本の、発達障害を精神障害に組み込む分類は、学術的に根拠がない。
- ・従来の障害3分類（身体/精神/知的）の枠組みを維持するためだけのものではないか。
- ・WHO 国際疾病分類第11版（ICD-11：2018公示、2022発効）も、米国精神医学会診断統計マニュアル第5版（DSM-5：2013）も、「知的障害」と「発達障害」を「神経発達症群」という大分類の下位項目としており、これが現在の世界標準である。

2

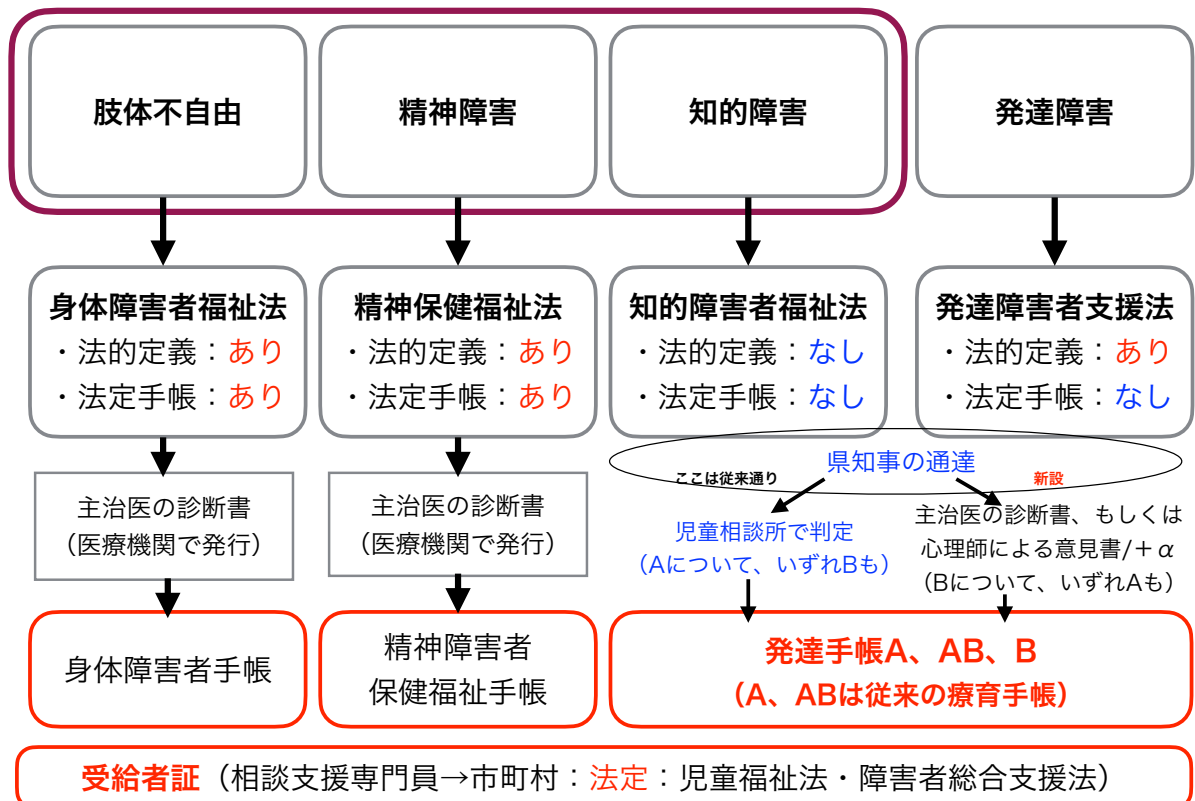
【現状】

日本の福祉制度上の3障害



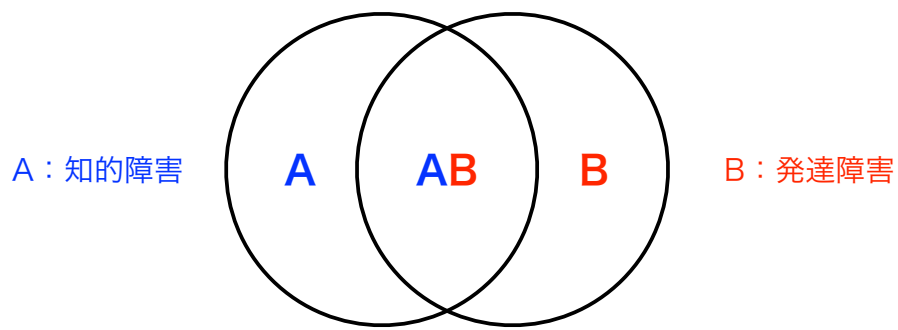
3

【千葉県独自で可能な工夫】



4

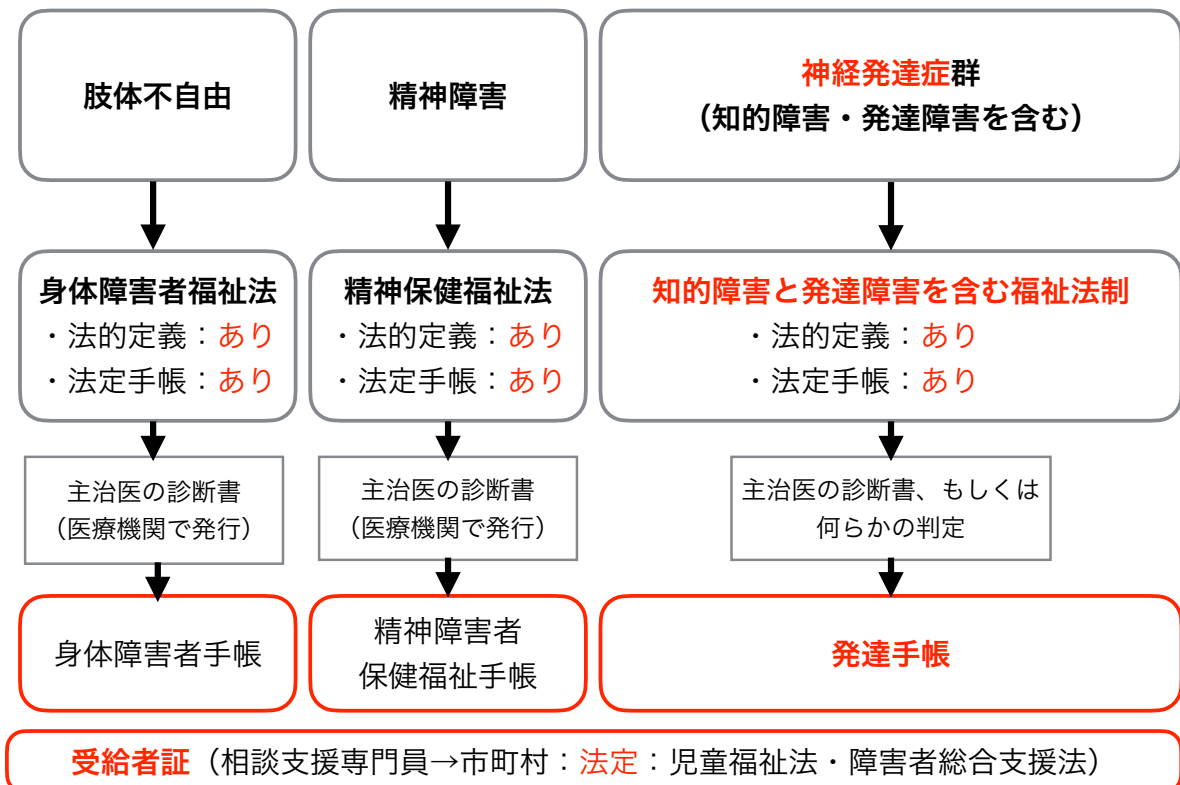
【発達手帳での数え方】



- ・知的障害 : A全体 または Aのみ+AB
- ・発達障害 : B全体 または Bのみ+AB
- ・知的障害+発達障害 : AB
- ・発達手帳所有者全体 : Aのみ+Bのみ+AB
もしくは A全体+B全体-AB

5

【こちらの方が合理的だが、大がかりな法改正が必要になる】



6

発達障害者支援法の一部を改正する法律（平成二八年六月三日法律第六四号）（衆）
成立時の衆参両院の付帯決議

一、提案理由（平成二八年五月一二日・衆議院本会議）

○渡辺博道君 　ただいま議題となりました両案について申し上げます。
……………（略）……………

　本案は、昨日の厚生労働委員会において、全会一致をもって委員会提出法律案とすることに決したものであります。（以下略）

二、参議院厚生労働委員長報告（平成二八年五月二五日）（略）

○附帯決議（平成二八年五月二四日）

- 一、（略）
- 二、（略）
- 三、（略）
- 四、（略）

五、地方公共団体により障害者手帳の取扱いの状況が異なること及び発達障害者の多くが障害者手帳を所持していないこと等の実情に鑑み、障害者手帳について在り方を検討すること

- 六、（略）

参議院のHPより（編集ならびに下線前本）全文は下記のサイト参照を
<https://www.sangiin.go.jp/japanese/joho1/kousei/gian/190/pdf/k051900361900.pdf>

【DSM-5による神経発達症群】 2013年

（米国精神医学会 診断統計マニュアル第5版）

- 1) 知的障害 ID
- 2) コミュニケーション障害
- 3) 自閉症スペクトラム障害 ASD
- 4) 注意欠如多動症 ADHD
- 5) 学習障害 LD
- 6) 運動障害（不器用を含む）
- 7) チック症（トゥレット症候群を含む）
- 8) その他

【ICD-11による神経発達症群】 2018年

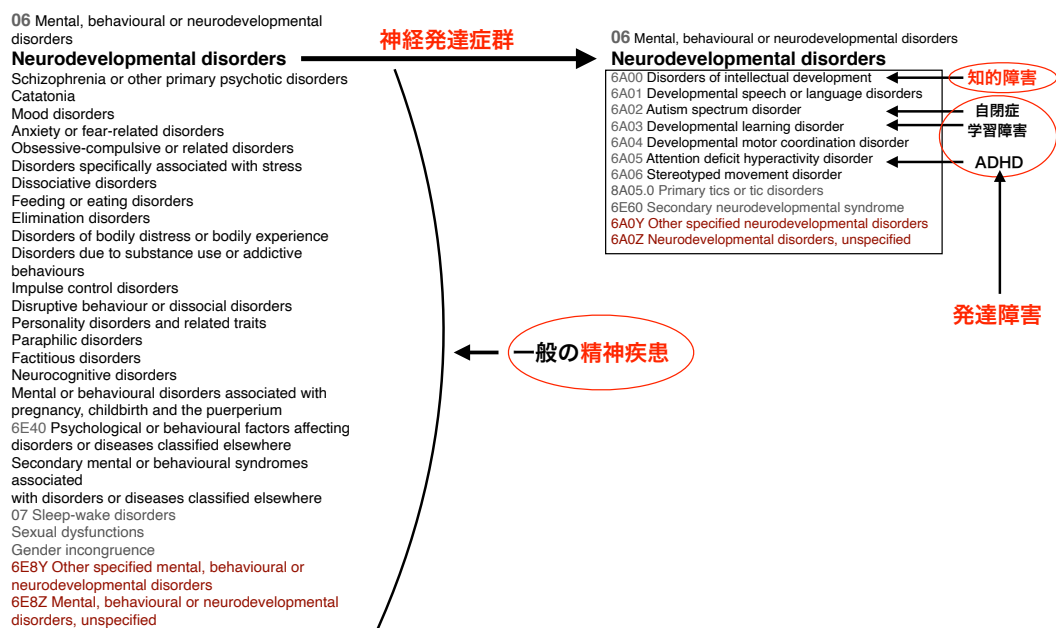
(WHO：国際疾病分類 第11版)

- 6A00) 知的発達の障害 DID・・・「知的障害 (ID)」相当
- 6A01) 会話もしくは言語発達の障害 DSLD
- 6A02) 自閉症スペクトラム障害 ASD
- 6A03) 学習障害 DLD (LD)
- 6A04) 発達性協調運動障害 DMCD (DCD)
- 6A05) 注意欠如多動症 ADHD
- 6A06) ステレオタイプ化した運動障害 SMD
- その他) 6A05.0 6A60 6A0Y 6A0Z

簡易訳出 前本達男
同じ分類法のDSM-5も参照した
2019/3/22

9

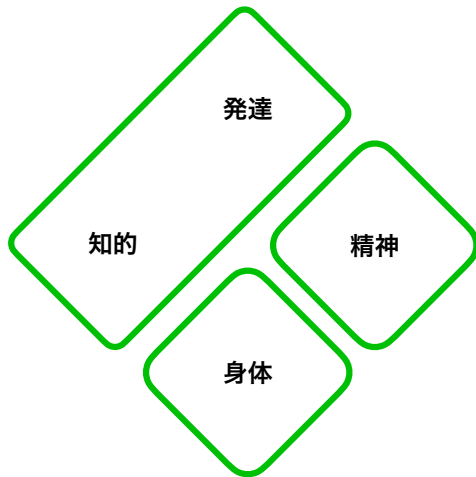
WHO ICD-11 2018 (世界保健機関 国際疾病分類第11版 2018) 06 Neurodevelopmental disorders



<https://icd.who.int/browse11/l-m/en>

【今回の提案のまとめ】

発達手帳



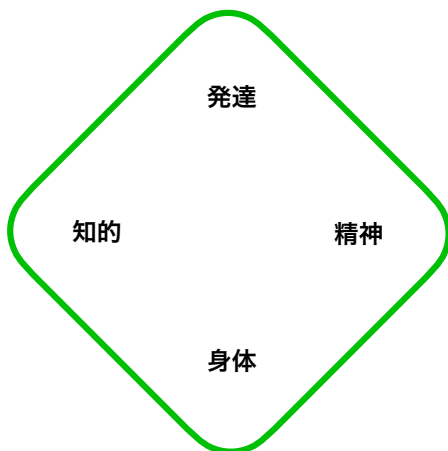
- ・発達障害は知的障害と統合し、「発達手帳」とする。
- ・その中で、どちらの障害がどの程度か、両方あるのかの記載をする。
- ・身体障害と精神障害は従来通り。

- ・利点：
- ①純粋に、発達障害の障害特性を以て障害認定される。
 - ②非常に多い、知的障害と発達障害の合併例も統計上重複カウントなしに計数できる。
 - ③ICD-11とDSM-5に対応し、発達障害は精神障害とは別であり、知的障害と同カテゴリーにあるという医学上の知見に裏付けられた根拠のある分類になる。

11

【その先の検討課題】

暮らしの手帳/生活手帳 等



- ・全ての障害を一つの手帳にまとめる。
- ・その中で、どの障害がどの程度あるのか、併存しているのかの記載をする。
(例えば、身体=A、精神=B、知的=C、発達=Dとし、それぞれを標記・程度判定を記載する。)

- ・利点：
- ①1人に1枚発行となるので、障害が併存しても複数枚とならず、マイナンバー等で名寄せしなくても、確実に実数が分かる。
 - ②また、ICF（国際生活機能分類）に従った、何がどのように不便なのかをまとめやすい。
 - ③人生の途中で他の障害を併発したときも、内容変更だけで一貫して使用できる。
- 注意！ 人を「障害者」と「健常者」と区別しないために、手帳名に「者」は入れない。

12